

09/75-968

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-175864

(43)Date of publication of application : 14.07.1995

(51)Int.Cl. G06F 17/60

(21)Application number : 05-343728

(71)Applicant : PASOKON SERVICE GUNMA:KK
UERUKAMU SHOJI:KK

(22)Date of filing : 16.12.1993

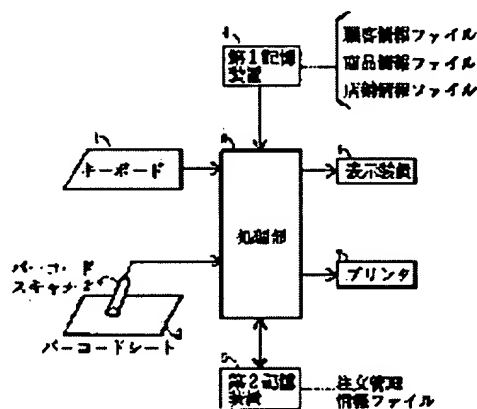
(72)Inventor : GOUNAI GAKUO
SATO MASAHITO

(54) DELIVERY ORDER PROCESSOR FOR RESTAURANT

(57)Abstract:

PURPOSE: To smoothly present delivery service at a restaurant.

CONSTITUTION: Customer codes and customer names by customers are previously stored in a first storage device 4 while being made correspondent. When any customer code is inputted from a salesclerk by a keyboard 1 and a bar code scanner 2 at the time of receiving a delivery order, a processing part 8 stores the customer code and vessel collection necessity information by orders showing the unnecessary of vessel collection in a second storage device 5 by orders while making them correspondent as order management information. When registering the vessel collection, the processing part 8 displays the customer names by orders on the screen of a display device 6 concerning all the orders, for which the vessel collection necessity information by orders shows unnecessary, while referring to the information stored in the first and second storage devices 4 and 5 and when the salesclerk registers and inputs the vessel collected orders by using the keyboard 1 and the bar code scanner 2, the vessel collection necessity information by orders in the order management information of those order is turned to the necessity of vessel collection and stored in the second storage device 5 by the processing part 8.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-175864

(43)公開日 平成7年(1995)7月14日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 17/60

G 0 6 F 15/ 21

3 3 0

Z

審査請求 未請求 請求項の数10 F D (全 22 頁)

(21)出願番号

特願平5-343728

(22)出願日

平成5年(1993)12月16日

(71)出願人 594010917

有限会社パソコンサービス群馬
群馬県群馬郡群馬町大字足門248番地

(71)出願人 594010928

有限会社ウエルカム商事
群馬県高崎市八千代町4丁目14番3号

(72)発明者 郷内 岳夫

群馬県群馬郡群馬町大字足門248番地 有
限会社パソコンサービス群馬内

(72)発明者 佐藤 正仁

群馬県高崎市八千代町4丁目14番3号 有
限会社ウエルカム商事内

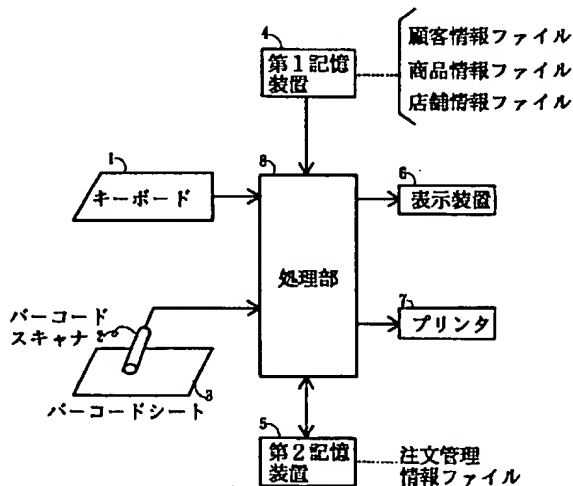
(74)代理人 弁理士 坪内 康治

(54)【発明の名称】 飲食店における出前注文処理装置

(57)【要約】

【目的】 飲食店における出前サービスを円滑に行えるようにする。

【構成】 予め第1記憶装置4に顧客別の顧客コードと顧客名を対応付けて記憶させておく。出前注文受付時、キーボード1、バーコードスキャナ2で店員により顧客コードが入力されると、処理部8は第2記憶装置5に注文別に、顧客コード、容器回収無しとした注文別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶させる。容器回収登録時、処理部8は第1記憶装置4、第2記憶装置5に記憶された情報を参照して、注文別容器回収有無情報が無しとなっている全ての注文につき、注文別の顧客名を表示装置6に画面表示させ、店員がキーボード1、バーコードスキャナ2で容器回収した注文の登録入力をする、処理部8は当該注文の注文管理情報の内、注文別容器回収有無情報を容器回収有りとして第2記憶装置5に記憶させる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報の入力を行い、容器回収登録時に容器回収した注文の登録入力を行う入力手段と、

入力手段での入力内容に基づき、注文別に、顧客特定情報、注文別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、

容器回収登録時を含む所定時に、注文管理情報記憶手段に記憶された情報を参照しながら、過去に受け付けた注文の内、少なくとも注文別容器回収有無情報が無しとなっている各注文別の顧客特定情報、または、過去に受け付けた各注文別の少なくとも顧客特定情報と注文別容器回収有無情報を含む画面を表示手段に表示させる表示処理手段と、

を備えたことを特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 2】 出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報、数量の入力を行い、容器回収登録時に容器回収した注文と商品の登録入力を行う入力手段と、

入力手段での入力内容に基づき、注文別に、顧客特定情報、商品特定情報及び数量、商品別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、

容器回収登録時を含む所定時に、注文管理情報記憶手段に記憶された情報を参照しながら、過去に受け付けた注文の内、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量を含む画面を表示手段に表示させる表示処理手段と、

を備えたことを特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 3】 出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報の入力を行い、容器回収登録時に容器回収した注文の登録入力を行い、また、所望時に容器回収指示書の印刷指示を行う入力手段と、

入力手段での入力内容に基づき、注文別に、顧客特定情報、注文別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、

入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、注文管理情報記憶手段に記憶された情報を参照しながら、過去に受け付けた注文の内、少なくとも注文別容器回収

有無情報が無しとなっている各注文別の顧客特定情報、または、過去に受け付けた各注文別の少なくとも顧客特定情報と注文別容器回収有無情報を含む容器回収指示書を印刷手段に印刷させる印刷処理手段と、

を備えたことを特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 4】 出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報、数量の入力を行い、容器回収登録時に容器回収した注文と商品の登録入力を行い、また、所望時に容器回収指示書の印刷指示を行う入力手段と、

入力手段での入力内容に基づき、注文別に、顧客特定情報、商品特定情報及び数量、商品別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、

入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、注文管理情報記憶手段に記憶された情報を参照しながら、過去に受け付けた注文の内、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量を含む容器回収指示書を印刷手段に印刷させる印刷処理手段と、

を備えたことを特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 5】 予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて住所または住所と電話番号を記憶させた顧客情報記憶手段を設け、

入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文別の住所または住所と電話番号も印刷させるようにしたこと、

を特徴とする請求項 3 または 4 または記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 6】 予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて配達エリアデータを記憶させた顧客情報記憶手段を設け、

入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文別の配達エリアも印刷させるようにしたこと、

を特徴とする請求項 3 または 4 記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 7】 顧客情報記憶手段に、顧客別の配達エリアデータを記憶しておき、

入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印

刷処理手段は各注文別の配達エリアも印刷させるようにしたこと、

を特徴とする請求項 5 記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 8】 入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文を配達エリア毎に仕分けした容器回収指示書を印刷させるようにしたこと、を特徴とする請求項 6 記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 9】 入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文を配達エリア毎に仕分けした容器回収指示書を印刷させるようにしたこと、を特徴とする請求項 6 記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項 10】 入力手段で容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文を近似住所毎に仕分けした容器回収指示書を印刷させるようにしたこと、を特徴とする請求項 5 記載の飲食店における出前注文処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は飲食店における出前注文処理装置に係り、とくに飲食店での出前サービスを円滑に行えるようにした飲食店における出前注文処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 飲食店が出前サービスを行う場合、店員は出前注文の受付、調理の指示、配達、集金及び容器の回収の各作業を行う必要がある。具体的には、電話で出前の注文が入ったとき、注文主の名前と場所、電話番号、注文品と数量などを聞いてメモ用紙に書き留め、調理場に注文内容を伝えて調理を依頼する。そして、全ての調理が終わったならば、出前ケースに収めて注文主の所に自転車、バイク等で配達したり、調理品を車両に乗せて配達する。配達時、代金の全額または一部を受け取って帰り、あとで、再び訪問して容器を回収し、代金の残りを集金して帰る。

【0003】 このような出前サービスにおいて、店員にはアルバイトが多く、仕事内容への熟練度が低いことから、様々な問題が生じる。例えば、容器を回収しようとしたとき、注文を受け付けたメモ用紙を紛失していたり、容器回収した幾つかの注文を書き留めたメモ用紙を紛失していたり、乱雑に書き留めたため読み誤ったりして、どの顧客に対する容器回収が済んでいないか判らなくなり、回収済の顧客のところにも再び容器回収に行ってしまうたり、未回収のまま放置したりすることがある。特に、配達した店員と異なる店員が容器回収するときや、何日か前の注文分の容器回収する場合、更には、或る顧客について複数回に分けて容器回収する場合に、間違いが生じやすい。容器を回収し忘れると顧客から苦情

を言われることがあり、また、補充のため余計な経費が掛かることになる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 飲食店でも一部のチェーン店などではパソコン等による O A 化が進められているが、従来の飲食店用業務処理装置はあくまで店内サービスに関するものに限られており、出前サービスについて上記したような問題を解決する装置は存在しなかった。以上から、本発明は、飲食店での出前サービスを円滑に行えるようにした飲食店における出前注文処理装置を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記課題は本発明によれば、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報の入力を行い、容器回収登録時に容器回収した注文の登録入力を行う入力手段と、入力手段での入力内容に基づき、注文別に、顧客特定情報、注文別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、容器回収登録時を含む所定時に、注文管理情報記憶手段に記憶された情報を参照しながら、過去に受け付けた注文の内、少なくとも注文別容器回収有無情報が無しとなっている各注文別の顧客特定情報、または、過去に受け付けた各注文別の少なくとも顧客特定情報と注文別容器回収有無情報を含む画面を表示手段に表示させる表示処理手段を備えたことにより達成される。

【0006】

【作用】 本発明によれば、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした注文別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶しておく。容器回収登録時を含む所定時、過去に受け付けた注文の内、少なくとも注文別容器回収有無情報が無しとなっている各注文別の顧客特定情報、または、過去に受け付けた各注文別の少なくとも顧客特定情報と注文別容器回収有無情報を含む画面を表示し、容器回収した注文の登録入力がなされると、該当する注文の注文別容器回収有無情報を容器回収有りとして記憶する。

【0007】 これにより、出前を受け付けた各注文につき、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、配達店員と異なる店員が容器回収する場合や、複数の店員で手分けして容器回収する場合、数日かそれ以前の配達分の容器回収をする場合でも、間違いなく容器回収することができる。

【0008】 また、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報、数量が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした商品別容器回収有無情報と注文商品特定情報及び数量を対応付けて注文管理情報として記憶しておく。容器回収登録時を含む所定時、過去に受け付けた注文の内、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有

る各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量を含む画面を表示し、容器回収した注文と商品の登録入力

【0009】これにより、出前を受け付けた各注文の各商品につき、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、特に同じ顧客から1回の注文分の容器を複数回に分けて回収する場合にも、間違いなく容器回収することができる。

【0010】また、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした注文別容器回収有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶し、容器回収登録時に容器回収した注文の登録入力がされると、該当する注文の注文別容器回収有無情報を容器回収有りとして記憶する。そして、所望時に容器回収指示書の印刷指示がされると、過去に受け付けた注文の内、少なくとも注文別容器回収有無情報が無しとなっている各注文別の顧客特定情報、または、過去に受け付けた各注文別の少なくとも顧客特定情報と注文別容器回収有無情報を含む容器回収指示書を印刷する。これによっても、出前を受け付けた各注文について、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、配達店員と異なる店員が容器回収する場合や、複数の店員で手分けして容器回収する場合、数日かそれ以上前の配達分の容器回収をする場合でも、間違いなく容器回収することができる。そして、容器回収指示書を持参して容器回収できるので、店舗で容器回収すべき顧客を覚える必要がない。

【0011】また、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報、数量が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした商品別容器回収有無情報と注文商品特定情報及び数量を対応付けて注文管理情報として記憶し、容器回収した注文と商品の登録入力がなされると、該当する注文、商品の商品別容器回収有無情報を容器回収有りとして記憶する。そして、所望時に容器回収指示書の印刷指示がされると、過去に受け付けた注文の内、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報

と商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量を含む容器回収指示書を印刷する。これにより、出前を受け付けた各注文の各商品につき、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、特に同じ顧客から1注文分の容器を複数回に分けて回収する場合にも、間違いなく容器回収することができる。

【0012】また、予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて住所または住所と電話番号を記憶させた顧客情報記憶手段を設け、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、各注文別の住所または住所と電話番号も印刷する。これにより、新人の店員でまだ行ったことのない顧客に対しても、住所で所在地を確認したり、或いは、電話で直接顧客に確認したりすることで、容易に容器回収に行くことができる。

【0013】また、予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて配達エリアデータを記憶させた顧客情報記憶手段を設け、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文別の配達エリアを印刷する。これにより、複数の店員が手分けしながら各自が同じ方向の顧客に対しまとめて容器回収することで、能率良く容器回収することができる。

【0014】また、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文を配達エリア毎に仕分けした容器回収指示書を印刷する。これにより、同一エリアでの容器回収すべき顧客を見分け易くなる。

【0015】また、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文を近似住所毎に仕分けした容器回収指示書を印刷する。これにより、複数の店員が手分けしながら各自が同じ方向の顧客に対しまとめて容器回収することで、能率良く容器回収することができる。

【0016】

【実施例】図1は本発明の一実施例に係る出前注文処理装置の全体構成図である。この出前注文処理装置はパソコン等のコンピュータシステムを基本構成としている。1はキーボードであり、メニュー選択、顧客コード、担当者名、数量、金額等の入力に用いる。2はペン式のバーコードスキャナであり、バーコードシート3(図14参照)に印刷されたバーコードを読み取ることで、各種メニュー選択、店員コード入力、出前注文受付時の出前対象の商品コード及び数量の入力、調理指示時、配達登録時、入金入力時、容器回収登録時における注文、商品選択等を行う。4は予め顧客情報ファイル、商品情報ファイル、店舗情報ファイルを記憶した第1記憶装置であり、顧客情報ファイルには顧客コード(本実施例では顧客の電話番号)、顧客名、住所、電話番号、配達エリア

データ、顧客の所在地を表す地図データが対応付けて記憶しており、商品情報ファイルには商品コード、商品名、価格（単価）、調理部署データが対応付けて記憶しており、店舗情報ファイルには、店員コードと店員名が対応付けて記憶してある。店舗情報ファイルには、店舗名、店舗電話番号等も記憶されている。

【0017】配達エリアデータは本実施例では、図2に示す如く、店舗を中心にした全配達地域をn個の方向別に等分割（ここではn=8とする）した各配達エリアの内、顧客所在地の存在する配達エリアの番号であり、調理部署データは図3に示す如く、うどん類、そば類、御飯類等、調理場が類似商品群によってm個の部署別に分かれている場合に（ここではm=3とする）、各商品の調理される部署の番号である。地図データは、顧客別に店舗から顧客所在地までの経路を分かり易く手書きし、イメージスキャナで読み取ることで作成してある。

【0018】5は注文管理情報ファイルを記憶する第2記憶装置であり、ここでは、注文別の管理情報として、受付年月日時刻、受付NO（同日の最初の注文が1）、受付店員コード、顧客コード、顧客側担当者名（顧客が企業、官庁等の場合）、商品コードと数量、注文代金（1回の注文での総額）、入金総額、入金入力毎の入金入力年月日時刻、入金入力店員コード、入金額、調理指示時刻、調理指示店員コード、調理指示有無情報、配達登録時刻、配達店員コード、配達有無情報、注文別容器回収有無情報、商品毎の商品別容器回収登録年月日時刻、商品別容器回収店員コード、商品別容器回収有無情報が含まれる。

【0019】6はメニュー画面のほか、注文受付画面、調理指示画面、配達登録画面、入金入力画面、容器回収登録画面など各種画面を表示する表示装置、7は調理部署別に分けた調理指示書や注文別に分けた会計伝票、配達エリア毎に仕分けた容器回収指示書等を印刷するプリンタ、8は出前注文処理に必要な所定の注文管理処理、表示処理、印刷処理を行う処理部であり、キーボード1やバーコードスキャナ2での操作に従い、第1記憶装置4、第2記憶装置5に記憶された情報を適宜参照するとともに、注文別の注文代金や入金総額の計算を行いながら注文別の注文管理情報を第2記憶装置5に記憶させたり、メニュー画面等の各種画面を表示装置6に表示させたり、調理部署別に分けた調理指示書や注文別に分けた会計伝票、配達エリア毎に仕分けた容器回収指示書をプリンタ7に印刷させたりする。

【0020】図4～図13は処理部8の動作を示す流れ図、図14はバーコードシート3の説明図、図15～図23は画面表示例の説明図、図24は調理指示書の説明図、図25は会計伝票の説明図、図26は容器回収指示書の説明図であり、以下、これらの図に従って説明する。なお、店舗の電話がコードレスでないとき、図1の出前注文処理装置は電話機の近くに設置しておく。ま

た、キーボード1での入力をキー入力、バーコードスキャナ2でのバーコードの読み取り入力をスキャンというものとする。

【0021】最初、処理部8は画面に図15の基本メニューを表示させる（図4のステップ101）。電話で顧客Aから出前注文が入ったとき、電話に出た店員aはバーコードシート3の「注文受付」をスキャンする（または、テンキーでメニュー番号1を入力する）。すると、処理部8は内蔵メモリ（図示せず）に注文受付用のワークエリアを確保し、現在の年月日、受付NO（同日の最初の注文が1とされ、以降、新たな注文受付がされる毎に、自動的にインクリメントされる。ここでは1となる）をワークエリアに一時記憶しながらこれらを元に、注文受付第1画面を表示させ（図16（1）参照）、店員コード入力を待つ（カーソルが店員名の項目に表示される。ステップ102～105）。ここで、店員aが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は店員コード、現在の時刻を一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名の表示を行い、顧客コード（＝電話番号）の入力を待つ（カーソルが電話番号の項目に移動。ステップ106、107）。

【0022】続いて、顧客Aから電話番号を聞いてテンキー入力すると、処理部8は顧客コードとして一時記憶し、顧客情報ファイルから該当する顧客コードを検索し、対応する顧客名と電話番号を読み出し、これらの表示を行い、顧客側担当者名の入力または一行完了コードの入力を待つ（カーソルが担当者名の項目に移動。ステップ108、109、111）。若し、顧客Aが企業、官庁等の場合、更に、担当者名を聞いて文字キー入力すると、その一時記憶と表示をし（ステップ110）、「一行完了」をスキャンすると（リターンキーを押してもよい）、カーソルを確認の項目に移動する（図16（2）参照）。更に、「確認」をスキャンすると、行番号を示すiを1とし、注文受付第2画面を表示させ（ステップ112、図5のステップ201、202、図17（1）参照）、最初の商品コードの入力待ちとなる（カーソルが注文受付表の1行目の商品名の項目に移動。ステップ203）。

【0023】そして、顧客Aから最初の注文商品と数量を聞き、例えば、たぬきそば2つの場合、「たぬきそば」をスキャンすると、処理部8は商品コードを一時記憶するとともに、商品情報ファイルから該当する商品コードを検索し、対応する商品名と価格（＝単価）を読み出し、更に、数量を1として、これらを第1行目のデータとして表示し、また、価格と数量を一時記憶する（ステップ204）。この際、数量の項目にカーソルを移動させる。続いて、単価×数量の計算を行って第1行の金額を求めて表示し、かつ、金額を合計して注文代金を求め、一時記憶と表示をする（ステップ207）。続いて、注文数量が2なので「2コ」をスキャンすると（テ

ンキーで2を入力してもよい)、第1行の商品数量として2を一時記憶するとともに表示の変更を行い(ステップ208、209)、単価を2倍して金額と注文代金を計算し直して一時記憶と表示をする(カーソルは1行目の数量の項目のまま。ステップ207)。

【0024】次に、顧客Aから2番目の注文商品があるか聞き、牛丼1つの場合、まず、「一行完了」をスキャンする(リターンキーを押圧してもよい)。すると、処理部8はiを2とし(ステップ210、211)、2行目の商品名の項目にカーソルを移動して商品コード入力10を待つ(ステップ203)。続いて、「牛丼」をスキャンすると、処理部8は2番目の商品コードとして一時記憶し、商品情報ファイルから該当する商品コードを検索し、対応する商品名と価格(=単価)を読み出し、更に、数量を1として、これらを第2行目のデータとして表示し、また、価格と数量を一時記憶する(ステップ204)。この際、数量の項目にカーソルを移動させる。続いて、単価×数量の計算を行って第2行の金額を求めて表示し、かつ、金額を合計して注文代金を求め、一時記憶と表示をする(ステップ207)。次いで、注文数量1なので「一行完了」をスキャンすると、処理部8はiを3とし(ステップ210、211)、3行目の商品名の項目にカーソルを移動して商品コード入力10を待つ(ステップ203)。このとき、画面は図17(2)の状態になる。

【0025】そして、3番目の注文商品があるか聞き、なければ、注文代金を顧客Aに伝えるなどしたのち、「注文終了」をスキャンすると、処理部8は今回の注文に関し、ワークメモリに記憶した種々の情報を第2記憶装置5に1つの注文管理情報として記憶させる。ここでは、受付年月日時刻、受付NO(=1)、受付店員コード、顧客コード、顧客側担当者名(データが存在する場合)、注文内容(商品コードと数量)、注文代金が記憶される。この際、調理指示有無情報、配達有無情報、注文別容器回収有無情報、商品別容器回収有無情報はともに無しを記憶させ、入金総額は零を記憶させる(ステップ205、206)。そして、画面を注文受付第1画面とし、次の注文受付を可能にする(図4のステップ104)。このとき、受付NOは2となる。他の顧客から続けて出前注文が入ったとき、前述と同様にして受付を行う。注文が無いときは「業務終了」をスキャンすると、基本メニュー画面に戻る(ステップ113、101)。なお、2番目の注文受付をせずに基本メニューに戻った場合、同日に次に「注文受付」をスキャンしたときの注文受付第1画面で受付NOが2となる。

【0026】その後、顧客Bからたぬきそば1、牛丼2の注文、顧客Cから親子丼1の注文、顧客Dからたぬきうどん1の注文を受け付けたものとする。

【0027】最初の受付から或る程度時間が経ったところで、店員bが調理場に調理指示を出したいと思ったと

き、基本メニュー画面が表示されている状態で、バーコードシート3の「調理指示」をスキャンする(または、テンキーで2を入力する)。すると、処理部8は内蔵メモリに調理指示用のワークエリアを確保し、現在の時刻を一時記憶しながら所定の調理指示画面を表示させ(図18(1)参照)、店員コードの入力を待つ(カーソルが店員名の項目に表示される。図4のステップ102、103、図6のステップ301、302)。ここで、店員bが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は該コードを一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名を表示させる(ステップ303)。そして、注文管理情報ファイルを参照して、調理指示有無情報が調理指示無しとなっている全ての注文につき(受付、調理、配達は同日になされるので、通常は当日分の注文の中から選ばれる)、注文管理情報をワークエリアに読み出し、更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する配達エリアデータ、電話番号、顧客名をワークエリアに読み出し、受付時刻、受付NO、配達エリア(番号)、顧客名、電話番号を含む調理指示表を作成し表示させる(注文別に行を変える)。この際、i=1とし、カーソルを1行目の調理指示の項目に表示させる(ステップ304~306、図18(2)参照)。

【0028】この調理指示画面を見て、店員bが配達エリアの番号が同じか隣接している注文を探す。ここでは1行目と3行目が該当するので、「調理」をスキャンして1行目の注文を選択する。すると、処理部8は1行目の注文につき調理指示有りを一時記憶するとともに画面に表示し(ステップ307、308)、iを2としてカーソルを2行目の調理指示の項目に移動させる(ステップ309、306)。続いて、「下カーソル」をスキャンすると(下カーソルキーを押圧してもよい)、処理部8はカーソルを3行目の調理指示の項目に移動させる(ステップ310、309、306)。この状態で、再び、「調理」をスキャンして3行目の注文を選択すると、処理部8は3行目の注文につき調理指示有りの一時記憶と表示をし(ステップ307、308)、カーソルを4行目の調理指示の項目に移動させる(ステップ309、306)。このとき、画面は図19の状態になる。若し、或る行の注文を間違えて選択したとき、「上カーソル」をスキャンしてカーソルを当該行に戻し、「調理取消」をスキャンすればよい(ステップ312、313、306、307、308)。

【0029】今回、調理指示する注文の選択が終了したならば、「調理指示終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回調理が指示された全ての注文につき、ワークエリア内の情報及び商品情報ファイルを参照して商品コードに対応する調理部署別に整理し、調理部署別に分けて、年月日、調理部署番号、商品名と数量を表した調理指示書(図24の符号9a、9b参照)をプリンタ7で1枚ずつ印刷させ、続いて、ワークエリア内の情報及

び顧客情報ファイル、店舗情報ファイルを参照しながら、注文別に分けて、年月日、配達エリア、顧客名、顧客側担当者名、住所、顧客電話番号、注文商品名、数量、単価、商品別の金額、注文代金、店舗名、店舗電話番号、及び、顧客の所在地を示す地図を表した会計伝票（図25の符号10a、10b参照）を2枚ずつ印刷させる（ステップ311、図7のステップ401）。そして、今回調理指示をした注文につき、注文別に調理指示時刻、調理指示店員コード、調理指示有無情報としての調理指示有りを記憶させ（ステップ402）、基本メニュー画面に戻す（図4のステップ101）。

【0030】店員bは調理部署別の調理指示書を該当する調理部署に回し、また、2枚組の会計伝票の内、1枚は控えとし、もう1枚は顧客渡し用とする。1枚の調理指示書には、同一または隣接する配達エリアの関係にある複数の顧客（ここではA、C）から受付けたの複数の注文の中から選び出された同じ部署において同一または似た調理法で調理可能な全ての商品が表されているので、一括して素早く調理することができる。しかも、注文受付時と調理指示時とで、異なる店員が操作しても、手書きのメモ用紙は使用していないので、誤読等による調理指示ミスが生じることはない。

【0031】更に、各調理部署で商品が出来上がったとき、注文別の会計伝票により、どの顧客にどの商品を配達すれば良いか確認できるので、出前ケースに収納したり車両に寄せたりするときに商品間違いが起きず、会計伝票を持参することで、顧客に引き渡す際の商品間違いも生じない。更に、同一または隣接する配達エリアの顧客に対する商品が同じ時間に出来上がるので、店舗から見てもほぼ同じ方向の複数の顧客について一緒に配達することができ、配達に要する時間が短くなる。また、会計伝票に記載された顧客住所、地図を参考にすることで、新人でも間違いなく最適な経路で配達に行くことができ、顧客の場所を探し回って配達が遅れることはない。万一、顧客の場所が判らなくても、顧客に電話して確認することができる。そして、配達と同時に集金できる場合も会計伝票に記された注文代金などにより金額を間違えなくて済む。

【0032】また、顧客コードを顧客の電話番号と同じにしたので、顧客名と顧客コードを対応させて印刷したコードブックを引いたりする手間が掛からず、顧客住所を会計伝票に印刷するようにしたので、注文受付時に住所を聞かなくても済む。また、調理指示をする店員が配達担当の店員でなくても、調理指示画面の配達エリア情報により、簡単に、同一または隣接する配達エリアの注文を選び出して調理指示を行うことができる。以下、同様の作業を繰り返すことで、出前注文受付、調理指示、配達を手際良く、正確に取り行うことができる。

【0033】その後、先に配達に行った店員bの手が空いたとき、配達登録を行う。まず、基本メニュー画面が

表示されている状態で、バーコードシート3の「配達登録」をスキャンする（またはテンキーで3を入力する）。処理部8は内蔵メモリに配達登録用のワークエリアを確保し、時刻をワークエリアに一時記憶しながら配達登録画面を表示させ（図20参照）、店員コードの入力を待つ（カーソルが店員名の項目に表示される。図4のステップ102、103、図8のステップ501、502）。ここで、店員bが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は該コードを一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名を表示させる（ステップ503）。そして、注文管理情報ファイルを参照して、配達有無情報が無しとなっている全ての注文につき（通常、当日分が選択される）、注文管理情報をワークエリアに読み出し、更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する配達エリア番号、電話番号、顧客名をワークエリアに読み出し、これらに基づき、受付時刻、受付NO、配達エリア（番号）、顧客名、電話番号、注文代金、入金総額を含む配達登録表を作成し表示させる（注文別に行を変える）。この際、 $i=1$ とし、カーソルを1行目の配達の項目に表示させる（ステップ504～506）。

【0034】この配達登録画面を見て、店員bは今日配達に行った注文を探す。1行目と3行目が該当するとき、カーソルが1行目に有る状態で「配達済」をスキャンし、1行目の注文の登録入力をする。すると、処理部8は1行目の注文につき配達有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させ、 i を2とし、カーソルを2行目の配達の項目に移動させる（ステップ507～509、506）。続いて、「下カーソル」をスキャンすると（下カーソルキーを押圧してもよい）、処理部8はカーソルを3行目の配達の項目に移動させる（ステップ510、509、506）。この状態で、「配達済」をスキャンして3行目の注文の登録入力をする、処理部8は3行目の注文につき配達有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させ、カーソルを4行目の配達の項目に移動させる（ステップ507～509、506）。このとき画面は図20の状態になる。

【0035】以上の如くして、配達登録入力が終了したならば、「配達登録終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回配達登録入力のされた注文につき、注文管理情報ファイルに注文別に、配達登録時刻、配達登録店員コードを記憶させるとともに配達有無情報として配達有りを記憶させ（ステップ511、512）、基本メニュー画面に戻す（図4のステップ101）。このようにして配達登録しておけば、あとで、他の店員等が配達登録画面を呼び出したとき、未配達の注文がどれか判り、注文別の配達の有無を管理することができ、配達忘れを防止することができる。

【0036】続いて、店員bが入金入力を行いたい場合、バーコードシート3の「入金入力」をスキャンする

10

20

30

40

50

(またはテンキーで4を入力する)。すると、処理部8は内蔵メモリに入金入力用のワークエリアを確保し、年月日時刻をワークエリアに一時記憶し、入金入力画面を表示させ(図21参照)、店員コードの入力を待つ(カーソルが店員名の項目に表示される。図4のステップ102、103、図9のステップ601、602)。ここで、店員bが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は該コードを一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名を表示させる(ステップ603)。そして、注文管理情報ファイルを参照して、入金総額が注文代金と一致していない全ての注文につき(ここでは当日分のほか前日分など他の日付けの注文も選択されることがある)、注文管理情報をワークエリアに読み出し、更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する配達エリアデータ、電話番号、顧客名をワークエリアに読み出し、これらを用いて受付月日、注文NO、配達エリア(番号)、顧客名、電話番号、注文代金、入金総額を含む入金入力表を作成し表示させる(注文別に行を変え

る)。この際、i=1とし、カーソルを1行目の入金額の項目に表示させる(ステップ604~606)。

【0037】この入金入力画面を見て、店員bは今日入金があった注文を探す。ここでは1行目と3行目が該当するので、顧客Aから注文代金を全額入金したときは、「全額入金」をスキャンして1行目の注文につき全額入金したことを入力する。処理部8は1行目の注文につき全額入金があったとして入金総額、入金額とも注文代金と同じ金額を一時記憶するとともに表示させ、iを2とし、カーソルを2行目の入金額の項目に移動させる(ステップ607~609、606)。

若し、間違えて全額入金としたときは、「上カーソル」をスキャンしてカーソルを1行目に戻したのち(ステップ611、612、606)、「入金取消」をスキャンする。すると、処理部8は1行目の注文につき入金額をクリアし、入金総額から入金額を引いて元に戻す(ステップ607、608)。

ここでは、1行目の注文につき全額入金処理したものとする。続いて、カーソルが2行目に在る状態で「下カーソル」をスキャンすると(下カーソルキーを押圧してもよい)、処理部8はカーソルを3行目の入金額の項目に移動させる(ステップ610、609、606)。

ここで、顧客Cからは注文代金の一部だけ入金したとき、「一部入金」をスキャンする。すると、処理部8はテンキーによる金額入力を待ち(図10のステップ701、702)、店員bが入力した金額を今回の入金額として一時記憶するとともに表示する(ステップ703)。入金額表示が正しければ、「確認」をスキャンする。すると、処理部8は今回の入金額をそれまでの入金総額と合計して新たな入金総額として一時記憶するとともに表示する(ステップ704、705)。そして、カーソルを第4行目に移動する(ステップ706、図9のステップ606)。このとき画面は図21の状態にな

る。

【0038】若し、入金額の或る桁を間違えていたときは、「確認」の代わりに「入金取消」をスキャンする。すると、処理部8は今回の入金額をクリアし(ステップ707、708)、ステップ702に戻るなので、再度、テンキーで金額を入力すればよい。

【0039】このようにして、今回の入金入力が完了したならば、「入金終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回入金入力した各注文につき、注文別に、入金総額、今回の入金入力年月日時刻と入金入力店員コードを記憶させ(ステップ709、710)、基本メニュー画面に戻す(図4のステップ101)。このようにして入金入力しておけば、あとで、他の店員等が入金入力画面を呼び出したとき、未集金の注文がどれか判り、注文別の集金状況を管理することができ、集金忘れを防止することができる。

【0040】その後、店員cやdがまだ容器を全て回収していない顧客から容器回収をしたい場合、基本メニューが表示されている状態でバーコードシート3の「容器回収指示書印刷」をスキャンする(またはテンキーで6を入力する)。すると、処理部8は注文管理情報ファイルを参照して、これまでに受け付けた注文の中で、注文別容器回収有無情報が無しとなっている全ての注文につき(または、商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る全ての注文につき)、各注文を配達エリア別に仕分けしながら、顧客名、電話番号、住所、注文代金、入金総額をリストにした容器回収指示書を印刷させる(図4のステップ102、103、図13のステップ1001、図26参照)。そして、図4のステップ101に戻る。なお、容器回収指示書の印刷はここでは1部だけとするが、店員の指定した部数だけ印刷するようにしてもよい。

【0041】この容器回収指示書により、容器回収すべき顧客が全て判るので、間違いなく容器回収でき、しかも、配達エリアが記載されているので、店員cが配達エリアが同じ1の顧客AとC、店員dが配達エリアが4と5で隣接している顧客BとDという具合にして、手分けして各自が同一または隣接方向の顧客に対しまとめて能率良く容器回収することができる。また、容器回収すべき顧客が配達エリア毎に仕分けられているので、同一または隣接した配達エリアとなっている顧客をリストから探す手間が省ける。更に、容器回収指示書を必要枚数複写して店員cとdが容器回収するに当たり、別々に持参することで、新人なため途中顧客宅が判らなくなっても住所記載を元に第3者に尋ねたり、電話番号を元に直接顧客に所在地を確認したりすることで、簡単に容器回収することができる。また、容器回収すべき顧客の注文代金とこれまでの入金総額も記載されていることから、容器回収対象顧客について、未集金が幾らあるかも判り、残金を正しく集金して来ることでもある。

【0042】その後、店員cが顧客AとCについて容器の回収をしてきたので、登録したい場合、基本メニュー画面が表示されている状態で、バーコードシート3の「容器回収登録」をスキャンする（またはテンキーで5を入力する）。すると、処理部8は内蔵メモリに容器回収登録用のワークエリアを確保し、年月日時刻を一時記憶しながら容器回収登録画面を表示させ（図22参照）、店員コードの入力を待つ（カーソルが店員名の項目に表示される。図4のステップ102、103、図11のステップ801、802）。ここで、店員cが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は該コードをワークエリアに一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名を表示させる（ステップ803）。そして、注文管理情報ファイルを参照して、注文別容器回収有無情報が無しとなっている全ての注文につき（または、商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る全ての注文につき）、注文管理情報をワークエリアに読み出し（ここでも当日分のほか前日分等他の日付けの注文が選択されることがある）、更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する配達エリアデータ、電話番号、顧客名をワークエリアに読み出し、これらの中から受付月日、注文NO、配達エリア（番号）、顧客名、電話番号、注文代金、入金総額を含む容器回収登録表を作成し表示させる（注文別に行を換える）。この際、カーソルを1行目の容器の項目に表示させる（ステップ804～806）。

【0043】この画面を見て、店員cが容器を回収した注文を探す。ここでは1行目と3行目が該当する。ここで、顧客Aについてはたぬきそばの容器だけ2食分回収できたとき、「明細」をスキャンする。すると、処理部8は1行目の注文に係る注文管理情報に基づき、注文受付時刻、受付NO、顧客名、電話番号に加えて、容器回収済の商品と容器未回収の商品の両者を合わせた全ての商品につき、商品名と数量、商品別容器回収有無情報、商品別容器回収店員名（回収者名）、商品別容器回収月日を含む容器回収登録明細表を作成し、表示させる（商品別に行を換える）。この際、商品別容器回収有無情報が既に有りとなっている商品については容器の項目に予め有りを表示させる。また、カーソルを1行目の容器の項目に表示させる（図12のステップ901～904、図23参照。但し、ここではまだたぬきそばの容器、回収者、月日は空欄である）。

【0044】この明細表を見て、店員cは容器を回収した商品を探す。ここでは1行目のたぬきそばなので、「容器回収済」をスキャンして1行目の商品の登録入力をする。処理部8は1行目の商品につき商品別容器回収有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させる（ステップ905、906）。この際、処理部8は1行目の商品の商品別容器回収店員コード、商品別容器回収年月日時刻として図11のステップ801、803のデ

ータを一時記憶し、回収者名（店員名）と月日も表示させる。これにより、画面は図23の状態となり、カーソルが2行目の容器の項目に移動する（ステップ907、904）。

【0045】若し、カーソルが1行目にある状態で、「容器回収済」をスキャンせず、間違えて「下カーソル」をスキャンすると（下カーソルキーを押圧すると）、処理部8はカーソルを2行目に移動してしまう（ステップ908、907、904）。このときは、「上カーソル」をスキャンし（上カーソルキーを押圧しても良い）、カーソルを1行目に戻したのち（ステップ909、910、904）、「容器回収済」をスキャンすれば良い。また、カーソルが2行目に有る状態で、間違えて「容器回収済」をスキャンしてしまったときは、「上カーソル」をスキャンしてカーソルを2行目に戻したのち（ステップ909、910、904）、「容器回収取消」をスキャンすれば良い。すると、処理部8は2行目の商品につき、商品別容器回収有無情報を無しに戻す（ステップ905、906）。この際、商品別容器回収店員コード、商品別容器回収年月日時刻もクリアする。

【0046】このようにして顧客Aからの今回の容器回収につき登録が終われば、「明細終了」をスキャンする。すると、処理部8は現在明細表を表示している注文の全商品につき商品別容器回収有無情報が全て有りとなっているかチェックする（ステップ911、912）。ここではNOなので、画面を元の容器回収登録表の状態（図22参照）に戻したのち（このステップは図12では省略してある）、2行目の注文の容器の項目に移動する（図11のステップ809、806）。若し、ステップ912でYESであったならば、画面を元の容器回収登録表の状態に戻したのち（このステップも図12では省略してある）、1行目の注文につき注文別容器回収有無情報を有りとして一時記憶するとともに表示する（図11のステップ808）。そして、カーソルを2行目の注文の容器の項目に移動する（ステップ809、806）。但し、ここではステップ912でNOとなったものとする。

【0047】カーソルが2行目に在る状態で、「下カーソル」をスキャンすると（下カーソルキーを押圧してもよい）、処理部8はカーソルを3行目の容器の項目に移動させる（ステップ810、809、806）。3行目の顧客Cの注文について全ての容器を回収できていたならば、「容器回収済」をスキャンして3行目の注文の登録入力をする。処理部8は3行目の注文につき注文別容器回収有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させ（この際、3行目の注文の全ての商品につき商品別容器回収有無情報を自動的に有りとして一時記憶し、商品別容器回収店員コード、商品別容器回収年月日時刻としてステップ801、803のデータを一時記憶す

る)、カーソルを4行目の容器の項目に移動させる(ステップ807~809、806)。このとき、画面は図22の状態になる。

【0048】若し、間違っ例えばカーソルが4行目に有る状態で、「容器回収済」をスキャンしてしまったときは、「上カーソル」をスキャンしてカーソルを4行目に戻したのち(ステップ811、812、806)、

「容器回収取消」をスキャンすれば良い。すると、処理部8は4行目の注文につき、注文別容器回収有無情報を無しに戻す(ステップ807、808)。この際、4行目の注文に係る全ての商品につき商品別容器回収有無情報

を無しに戻し、商品別容器回収店員コード、商品別容器回収年月日時刻もクリアする。

【0049】このようにして容器回収登録が終了したならば、「容器回収登録終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回、容器回収の登録入力をした注文につき、注文別に、注文管理情報ファイルに注文別容器回収有無情報、商品毎の商品別容器回収有無情報、商品別容器回収登録年月日時刻、商品別容器回収店員コードを記憶させ(図12のステップ913、914)、基本メニュー画面に戻す(図4のステップ101)。このようにして容器回収登録しておけば、あとで、他の店員等が容器回収登録画面を呼び出したとき、未回収の注文、商品がどれか判り、注文別、商品別の容器回収状況を管理することができ、容器回収忘れを防止することができる。

【0050】なお、入金入力は配達登録または容器回収登録と一緒にできる場合が多いので、図8のステップ512の処理をしたあと直ちに基本メニュー画面に戻るのではなく、「業務終了」コードまたは「入金入力」コードの入力を待ち、前者の入力があったときは基本メニュー画面に戻り、後者の入力があったときは図9のステップ601に進むようにし、同様に、図12のステップ914の処理をしたあと直ちに基本メニュー画面に戻るのではなく、「業務終了」コードまたは「入金入力」コードの入力を待ち、前者の入力があったときは基本メニュー画面に戻り、後者の入力があったときは図9のステップ601に進むようにしてもよい。

【0051】また、図6のステップ304において、調理指示画面の調理指示表に表示する注文は、調理指示有無情報が無しとなっているものだけでなく、当日受け付けた注文全てとし、既に調理指示有無情報が有りとなっている注文については、調理指示の項目に有を予め表示させておくようにしても良い。同様に、図8のステップ504において、配達登録画面の配達登録表に表示する注文は、配達有無情報が無しとなっているものだけでなく、当日受け付けた注文全てとし、既に配達有無情報が有りとなっている注文については、配達の項目に有を予め表示させておくようにしても良い。

【0052】また、図9のステップ604において、入金入力画面の入金登録表に表示する注文は、入金総額が

注文代金と一致しているものも含めて或る期間内(例えば、3日や1週間)の全ての注文としても良く、同様に、図11のステップ804において、容器回収登録画面の容器回収登録表に表示する注文も、注文別容器回収有無情報が無しとなっているものだけでなく、或る期間内に受け付けた注文全てとし、既に注文別容器回収有無情報が有りとなっている注文については、容器の項目に有を予め表示させておくようにしても良い(または、商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品を含む注文だけでなく、或る期間内に受け付けた注文全てとし、既に全ての商品につき商品別容器回収有無情報が有りとなっている注文については、容器の項目に有を予め表示させておくようにしても良い)。また、図12のステップ902において、容器回収登録明細表に表示する商品は、逆に、当該注文に係る全ての商品でなく、商品別容器回収有無情報が無しとなっているものだけとしてもよい。

【0053】この実施例によれば、出前注文の受付入力と、注文別、商品別の容器回収の登録入力をしておけば、容器回収登録画面を呼び出すことで容器未回収となっている商品の有る注文の顧客名、電話番号、注文代金、入金総額や、更に、容器未回収となっている商品名と数量等を知ることができ、出前を受け付けた各注文の各商品につき、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、配達店員と異なる店員が容器回収する場合や、複数の店員で手分けして容器回収する場合、数日かそれ以前の配達分の容器回収をする場合、更には同じ顧客から1回の注文分の容器を複数回に分けて回収する場合等において、間違いなく容器回収することができる。

【0054】また、所望時に容器未回収となっている注文につき、配達エリア別に仕分けながら、配達エリア、顧客名、住所、電話番号、注文代金、入金総額を表した容器回収指示書を印刷させることができ、この容器回収指示書により、容器回収すべき顧客が全て判るので、間違いなく容器回収でき、しかも、配達エリアが記載されているので、複数の店員で手分けして回収するとき、或る店員が或る1つの配達エリアまたは該配達エリアに隣接する配達エリアに属する複数の顧客に対し回収に行き、他の店員が他の或る1つの配達エリアまたは該配達エリアに隣接する配達エリアに属する複数の顧客に対し回収に行くという具合にして、手分けして各自が同一または隣接方向の顧客に対しまとめて能率良く容器回収することができる。また、容器回収すべき顧客が配達エリア毎に仕分けられているので、同一または隣接した配達エリアとなっている顧客をリストから探す手間が省ける。更に、複数の店員で容器回収するに当たり、容器回収指示書を必要枚数だけ複写して別々に持参することで、新人なため途中顧客宅が判らなくなっても住所記載を元に第3者に尋ねたり、電話番号を元に直接顧客に所

在地を確認したりすることで、簡単に容器回収することができる。また、容器回収すべき顧客の注文代金とこれまでの入金総額も記載されていることから、容器回収対象顧客について、未集金が幾らあるかも判り、容器回収時に残金を正しく集金して来ることもできる。

【 0 0 5 5 】また、商品、数量、店員等のデータ入力は勿論のこと、メニュー選択、カーソル操作、確認、取消、終了等の各種コマンド入力をバーコードのスキャンで行えるため、キーボード操作を苦手とする店員であっても、簡単に、注文受付、調理指示、配達登録、入金入力、容器回収登録等の各種業務処理をこなすことができる。更に、注文管理情報ファイルに登録された注文別の各種注文管理情報を用いることで、各種集計処理が可能となり、集計結果を表示させたり、印刷させたりすることができる。例えば、調理未指示注文の有無、未配達注文の有無、入金未完了注文の有無、容器未回収注文の有無等を管理したり、1日単位、周単位、月単位での注文総数、注文内容、集金額等の集計が可能であり、更に、これらのデータを荒利の計算に利用することもできる。また、店員別の注文受付件数、調理指示件数、配達件数、集金額、容器回収件数の管理も可能である。

【 0 0 5 6 】なお、上記した実施例では顧客コードを電話番号と同一にしたが、電話番号の先頭に特定数値を加えるなどしたコードとしたり、電話番号とは全く別個に定義したコードとしてもよい。後者の場合、顧客名と顧客コードを対応させたコードシートを用意すれば良い。また、顧客を特定するために入力するデータは顧客コードでなく顧客名または住所とし、電話注文を受けた店員が顧客名または住所を聞き、キーボード1で文字入力するようにしてもよい。また、注文管理情報ファイルに記憶する各注文別の顧客特定情報を顧客コードとしたが、顧客名や略符号としても良く、更に各種画面に表示する顧客特定情報や会計伝票、容器回収指示書に印刷する顧客特定情報を顧客コードや略符号としても良く、これらは入力データそのものであっても、入力データに基づき顧客情報ファイルから検索したデータであっても良い。

【 0 0 5 7 】更に、商品を特定するために入力するデータも商品コードでなく商品名とし、電話注文を受けた店員が商品名を聞き、キーボード1で文字入力するようにしてもよい。また、注文管理情報ファイルに記憶する各注文別の商品特定情報を商品コードとしたが、商品名や略符号としても良く、更に各種画面に表示する顧客特定情報や調理指示書、会計伝票、容器回収指示書に印刷する商品特定情報を商品コードや略符号としても良く、これらは入力データそのものであっても、入力データに基づき商品情報ファイルから検索したデータであっても良い。

【 0 0 5 8 】また、容器回収指示書は容器未回収となっている各注文につき、顧客の配達エリアで仕分けするようにしたが、町名が同一、町名と丁目番号が同一など、

住所の近似した注文毎に仕分けするようにしてもよい。また、配達エリア別や近似住所別に1枚ずつ分けて印刷するようにしてもよい。更に、容器回収指示書に登場した各顧客の地図も容器回収指示書と一緒に印刷するようにしてもよい。

【 0 0 5 9 】また、図 2 7 に示す如く、容器未回収となっている各注文につき、配達エリアに仕分けしながら、配達エリア、顧客名、電話番号、住所、注文代金、入金総額に加えて、容器未回収となっている商品名と数量も合わせて印刷するようにしてもよい。

【 0 0 6 0 】また、容器回収指示書に印刷する注文も、注文別容器回収有無情報が無しとなっているものだけでなく、或る期間内に受け付けた注文全てとし、既に注文別容器回収有無情報が有りとなっている注文については、予め容器回収有りを示す印を付けておくようにしても良い（または、商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品を含む注文だけでなく、或る期間内に受け付けた注文全てとし、既に全ての商品につき商品別容器回収有無情報が有りとなっている注文については、予め容器回収有りを示す印を付けておくようにしても良い）。図 2 7 の例においては、容器未回収の商品と容器回収済の商品を全て数量とともに印刷し、容器回収済の商品については、予め容器回収有りを示す印を付けておくようにしても良い。

【 0 0 6 1 】また、通常は印刷時間短縮のため会計伝票には地図を印刷しないようにし、基本メニューに加えた「地図付調理指示」が選択されて調理指示がされたときだけ、処理部 8 が会計伝票上に地図を印刷させるようにしたり、或いは、基本メニューに「地図印刷」を加えておき、該メニューが選択されて、例えば顧客コードが入力されたとき、会計伝票とは関係なく、処理部 8 が顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する地図を顧客名、所在地、電話番号などとともに用紙に印刷させるようにしてもよい。

【 0 0 6 2 】また、調理を指示する注文が選択されたあと、処理部 8 は今回調理指示した調理指示書と会計伝票を自動的に印刷させるようにしたが、調理指示する注文を選択後、「調理指示書・会計伝票印刷」コードのスキャン等で調理指示書と会計伝票の両方の印刷が指示されたときは今回調理指示された各注文内容を部署別に分けた調理指示書と注文別の会計伝票を印刷させるが、「調理指示書印刷」コードのスキャン等で調理指示書の印刷が指示されたときは今回調理指示された各注文内容を部署別に分けた調理指示書だけを印刷させ、「会計伝票印刷」コードのスキャン等で会計伝票の印刷が指示されたときは今回調理指示された各注文内容を注文別の会計伝票だけを印刷させるようにしてもよい。これにより、調理指示書または会計伝票の一方を印刷させることができ、印刷用紙が不足してきたときの節約等の便宜を図ることができる。

【0063】また、会計伝票にミシン目を入れておき（図25の符号11参照）、顧客に渡す前に地図の部分切り離せるようにしてもよい。

【0064】また、プリンタ7を各調理部署にも設置しておき、当該調理部署宛の調理指示書は当該部署に置かれたプリンタ7で印刷するようにすれば、調理指示書を配付する手間が省ける。この場合、プリンタ7と処理部8との間のデータ及び制御信号の授受を無線で行うようにし、ケーブルの引き回しを避けるようにしてもよい。また、調理場が特に部署別に分かれていないときなど、必ずしも調理指示書を部署別に分けて印刷しなくてもよく、1枚の調理指示書に今回調理が指示された全ての注文の全ての商品名と数量を印刷するようにしてもよい。更に、調理場が部署別に分かれていないときなど、調理指示書の印刷を省略し、会計伝票だけ印刷し、該会計伝票を調理場に回して調理指示を行い、調理完了後、回収して控え、配達等に利用するようにしてもよい。

【0065】また、各調理部署に調理完了を店員に知らせるための操作装置を備え、店舗所定箇所に設置したブザー、ランプ等で調理完了を店員に知らせるようにしてもよく、更に、各調理部署毎に処理部8と接続された表示装置を設置し、調理指示書や会計伝票を印刷する際、部署別の調理指示内容を各表示装置に表示させるようにしてもよい。

【0066】

【発明の効果】本発明によれば、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした注文別容器回収有無情報に対応付けて注文管理情報として記憶しておき、容器回収登録時を含む所定時、過去に受け付けた注文の内、少なくとも注文別容器回収有無情報が無しとなっている各注文別の顧客特定情報、または、過去に受け付けた各注文別の少なくとも顧客特定情報と注文別容器回収有無情報を含む画面を表示し、容器回収した注文の登録入力となされると、該当する注文の注文別容器回収有無情報を容器回収有りとして記憶するように構成したから、出前を受け付けた各注文につき、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、配達店員と異なる店員が容器回収する場合や、複数の店員で手分けして容器回収する場合、数日かそれ以前の配達分の容器回収をする場合でも、間違いなく容器回収することができる。

【0067】また、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報、数量が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした商品別容器回収有無情報と注文商品特定情報及び数量に対応付けて注文管理情報として記憶しておき、容器回収登録時を含む所定時、過去に受け付けた注文の内、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収

有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量を含む画面を表示し、容器回収した注文と商品の登録入力となされると、該当する注文、商品の商品別容器回収有無情報を容器回収有りとして記憶するように構成したから、出前を受け付けた各注文の各商品につき、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、特に同じ顧客から1回の注文分の容器を複数回に分けて回収する場合にも、間違いなく容器回収することができる。

【0068】また、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした注文別容器回収有無情報に対応付けて注文管理情報として記憶し、容器回収登録時に容器回収した注文の登録入力となされると、該当する注文の注文別容器回収有無情報を容器回収有りとして記憶する。そして、所望時に容器回収指示書の印刷指示がされると、過去に受け付けた注文の内、少なくとも注文別容器回収有無情報が無しとなっている各注文別の顧客特定情報、または、過去に受け付けた各注文別の少なくとも顧客特定情報と注文別容器回収有無情報を含む容器回収指示書を印刷するように構成したから、出前を受け付けた各注文について、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、配達店員と異なる店員が容器回収する場合や、複数の店員で手分けして容器回収する場合、数日かそれ以上前の配達分の容器回収をする場合でも、間違いなく容器回収することができる。そして、容器回収指示書を持参して容器回収できるので、店舗で容器回収すべき顧客を覚える必要がない。

【0069】また、出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報、数量が入力されると、注文別に顧客特定情報と容器回収無しとした商品別容器回収有無情報と注文商品特定情報及び数量に対応付けて注文管理情報として記憶し、容器回収した注文と商品の登録入力となされると、該当する注文、商品の商品別容器回収有無情報を容器回収有りとして記憶する。そして、所望時に容器回収指示書の印刷指示がされると、過去に受け付けた注文の内、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品の有る各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各

注文別の顧客特定情報と少なくとも商品別容器回収有無情報が無しとなっている商品特定情報及び数量、または、過去に受け付けた各注文別の顧客特定情報と商品別容器回収有無情報と商品特定情報及び数量を含む容器回収指示書を印刷するように構成したから、出前を受け付けた各注文の各商品につき、メモ用紙を用いることなく容器回収状況の正確な管理が可能となり、特に同じ顧客から1注文分の容器を複数回に分けて回収する場合にも、間違いなく容器回収することができる。

【0070】また、予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて住所または住所と電話番号を記憶させた顧客情報記憶手段を設け、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、各注文別の住所または住所と電話番号も印刷するように構成したから、新人の店員でまだ行ったことのない顧客に対しても、住所で所在地を確認したり、或いは、電話で直接顧客を確認したりすることで、容易に容器回収に行くことができる。

【0071】また、顧客情報記憶手段に、顧客別の配達エリアデータを記憶しておき、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文別の配達エリアを印刷するように構成したから、複数の店員が手分けしながら各自が同じ方向の顧客に対しまとめて容器回収することで、能率良く容器回収することができる。

【0072】また、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文を配達エリア毎に仕分けした容器回収指示書を印刷するように構成したから、同一エリアでの容器回収すべき顧客を見分け易くなる。

【0073】また、容器回収指示書の印刷が指示されたとき、印刷処理手段は各注文を近似住所毎に仕分けした容器回収指示書を印刷するように構成したから、複数の店員が手分けしながら各自が同じ方向の顧客に対しまとめて容器回収することで、能率良く容器回収することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係る出前注文処理装置の全体構成図である。

【図2】配達エリアの説明図である。

【図3】調理部署の説明図である。

【図4】処理部の動作を示す第1の流れ図である。

【図5】処理部の動作を示す第2の流れ図である。

【図6】処理部の動作を示す第3の流れ図である。

【図7】処理部の動作を示す第4の流れ図である。

【図8】処理部の動作を示す第5の流れ図である。

【図9】処理部の動作を示す第6の流れ図である。

【図10】処理部の動作を示す第7の流れ図である。

【図11】処理部の動作を示す第8の流れ図である。

【図12】処理部の動作を示す第9の流れ図である。

【図13】処理部の動作を示す第10の流れ図である。

【図14】バーコードシートの説明図である。

【図15】画面表示例の説明図である。

【図16】画面表示例の説明図である。

【図17】画面表示例の説明図である。

【図18】画面表示例の説明図である。

【図19】画面表示例の説明図である。

【図20】画面表示例の説明図である。

【図21】画面表示例の説明図である。

【図22】画面表示例の説明図である。

【図23】画面表示例の説明図である。

【図24】調理指示書の説明図である。

【図25】会計伝票の説明図である。

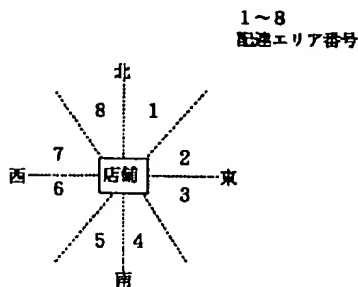
【図26】容器回収指示書の説明図である。

【図27】容器回収指示書の変形例の説明図である。

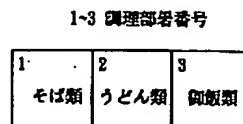
【符号の説明】

- 1 キーボード
- 2 バーコードスキャナ
- 3 バーコードシート
- 4 第1記憶装置
- 5 第2記憶装置
- 6 表示装置
- 7 プリンタ
- 8 処理部

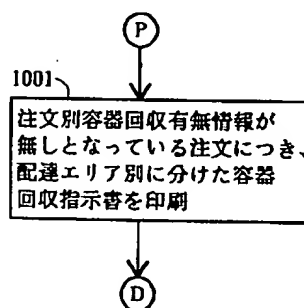
【図2】



【図3】



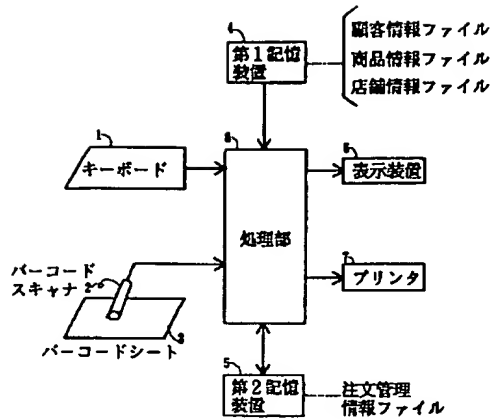
【図13】



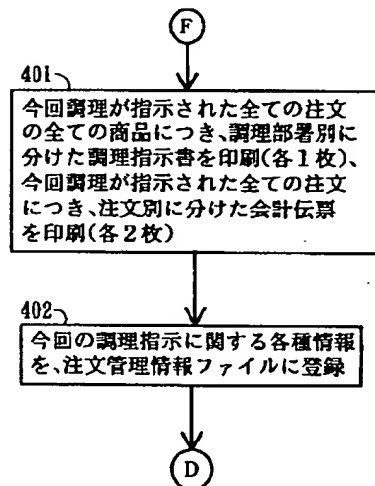
【図15】

1. 注文受付
2. 調理指示
3. 配達登録
4. 入金入力
5. 容器回収登録
6. 容器回収指示書印刷

【図 1】



【図 7】

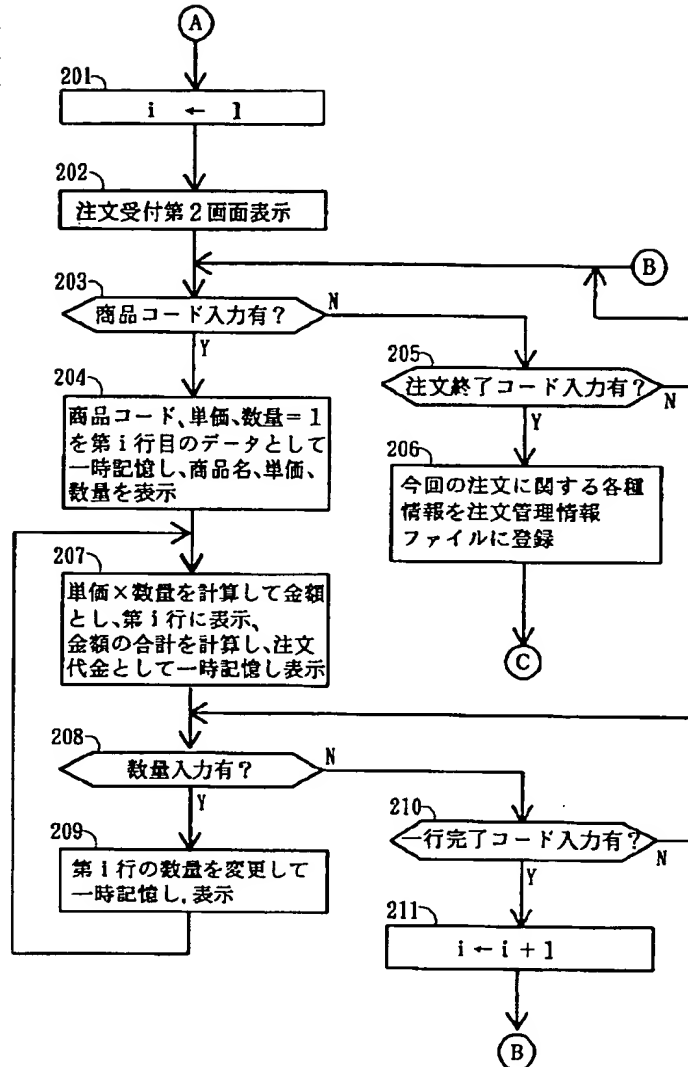


【図 19】

93-10-12 調理指示 店員名〇〇〇〇

時間	No	エリア	顧客名	電話	調理指示
AM11:30	1	1	〇〇〇会社	23-0034	有
AM11:35	2	5	〇〇〇〇	××××	
AM11:39	3	1	〇〇〇〇	××××	有
AM11:44	4	4	〇〇〇〇	××××	

【図 5】

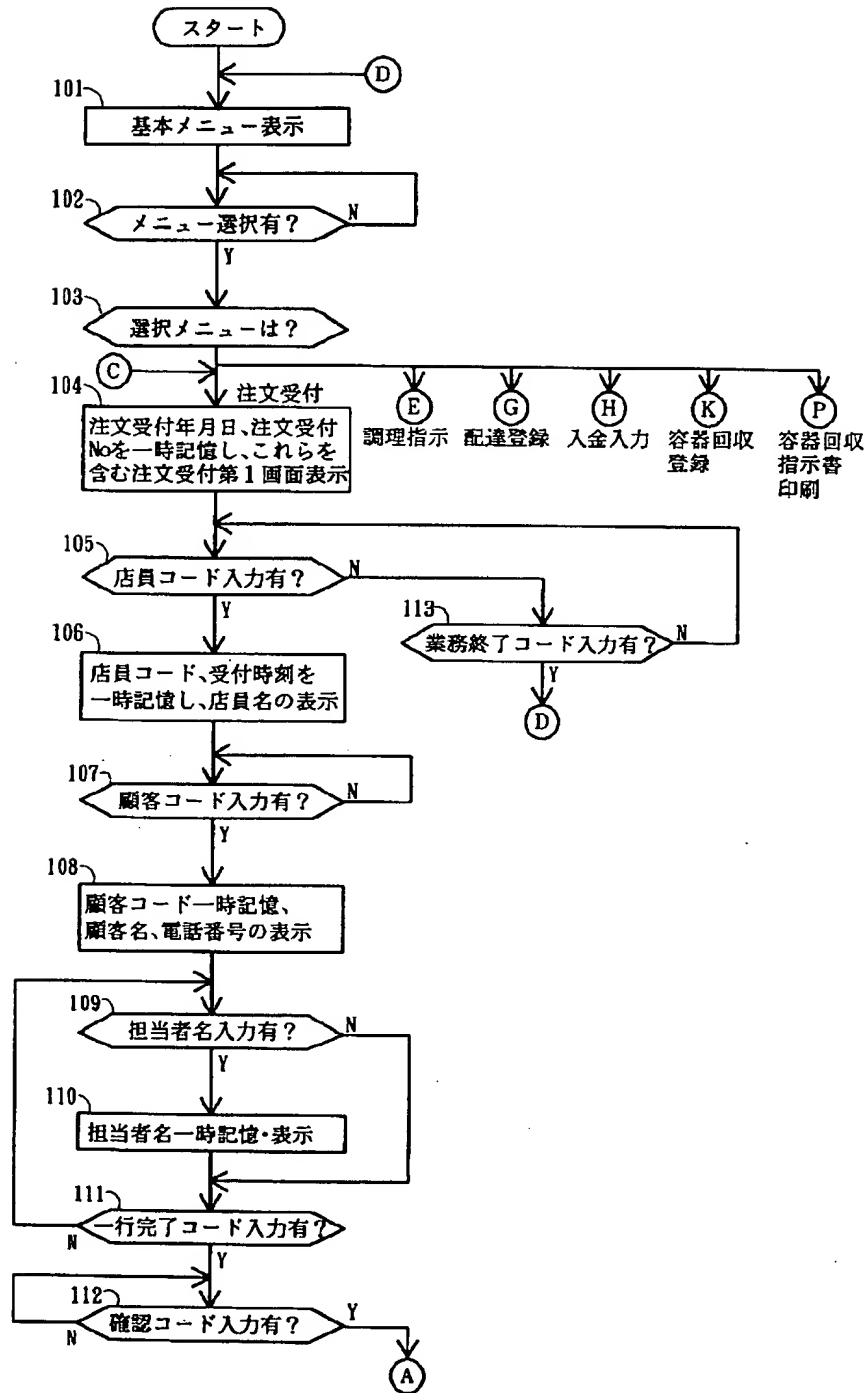


【図 20】

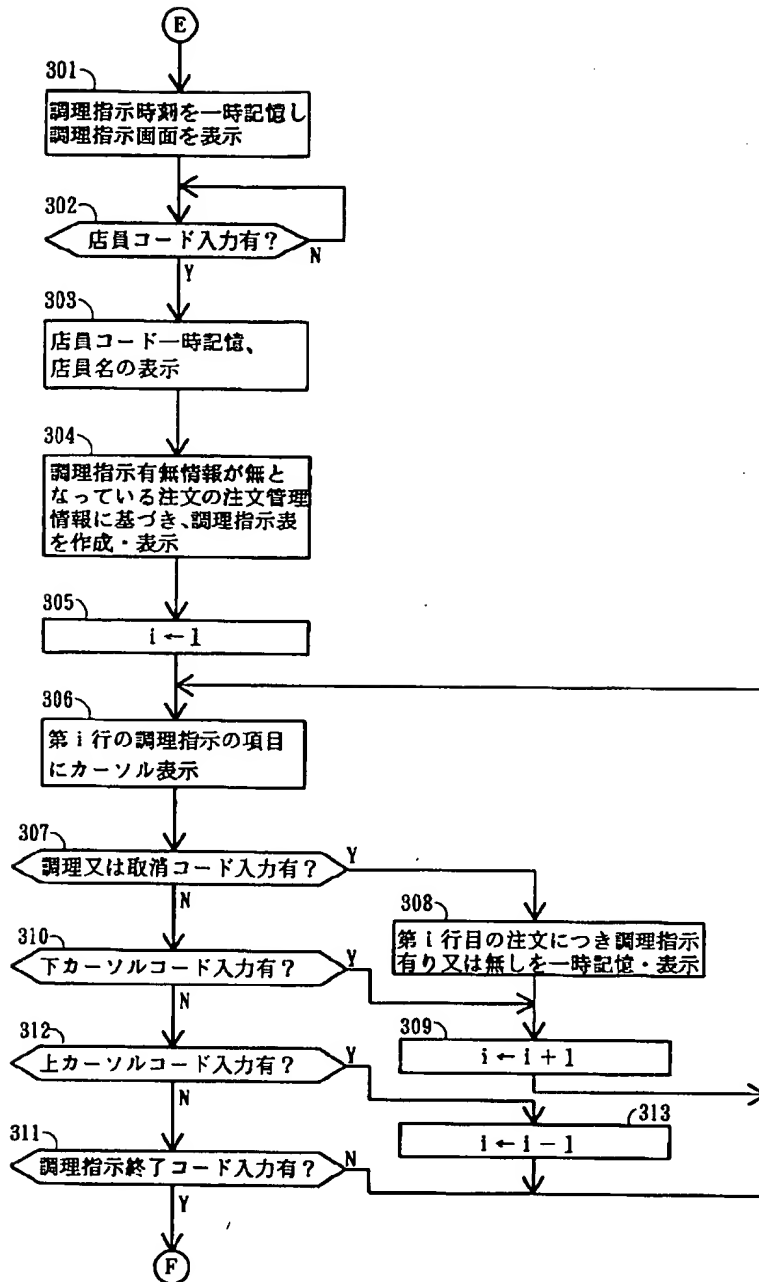
93-10-12 配達登録 店員名〇〇〇〇

時間	No	エリア	顧客名	電話	注文代金	入金総額	入金額	配達	容器
AM11:30	1	1	〇〇〇会社	23-0034	1800			有	
AM11:35	2	5	〇〇〇〇	××××	500				
AM11:39	3	1	〇〇〇〇	××××	1500			有	
AM11:44	4	4	〇〇〇〇	××××	2500				

【図 4】



【図 6】



【図 17】

(1)

93-10-12 注文受付 顧客名 ○○○会社

商品名	数量	単価	金額
注文代金			

(2)

93-10-12 注文受付 顧客名 ○○○会社

商品名	数量	単価	金額
たぬきそば	2	650	1300
牛丼	1	500	500
注文代金			1800

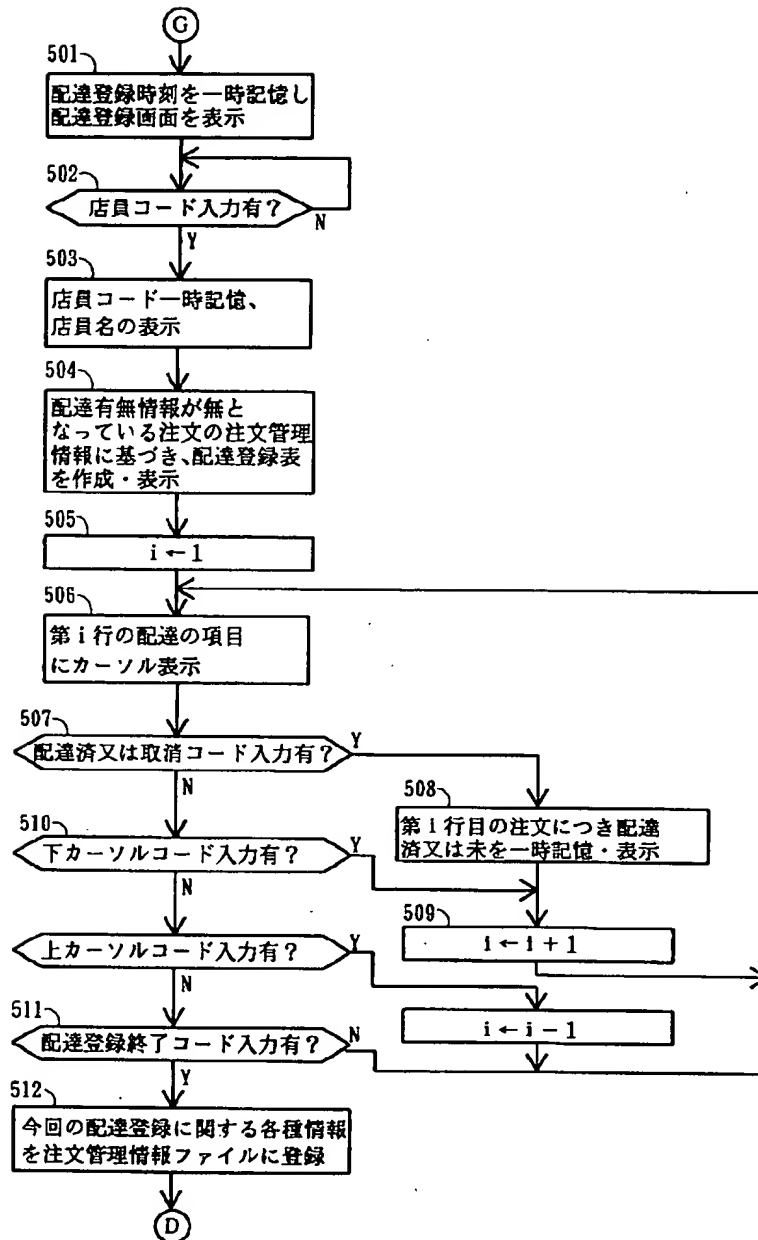
【図 23】

93-10-12 容器回収

時間	No	顧客名	電話番号
AM11:30	1	○○○会社	23-0034

商品名	数量	容器	回収者	月日
たぬきそば	2	済	○○○○	10-12
牛丼	1			

【図 8】

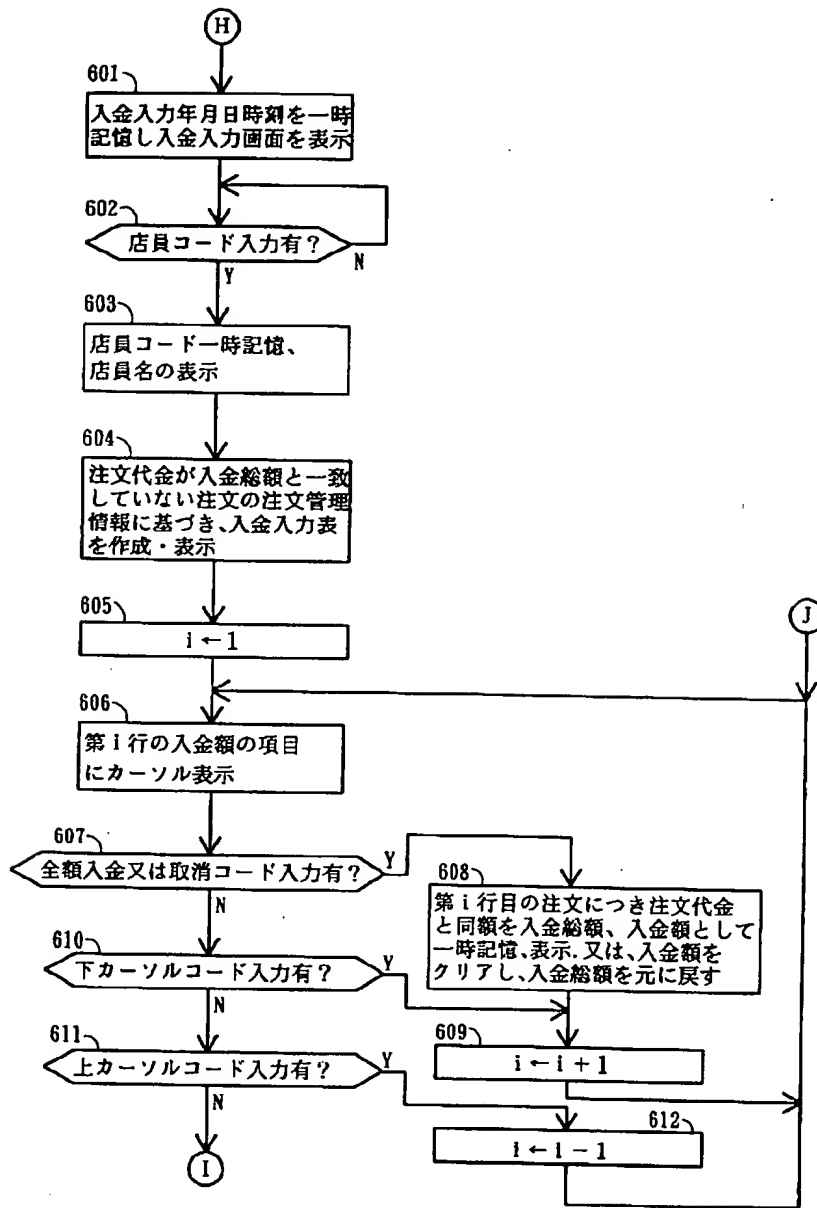


【図 2 1】

93-10-12 入金入力 店員名〇〇〇〇

月 日	No	エリア	顧客名	電話	注文代金	入金総額	入金額	配達	容器
10-12	1	1	〇〇〇会社	23-0034	1800	1800	1800	有	
10-12	2	5	〇〇〇〇	××××	500				
10-12	3	1	〇〇〇〇	××××	1500	1000	1000	有	
10-12	4	4	〇〇〇〇	××××	2500				

【図 9】

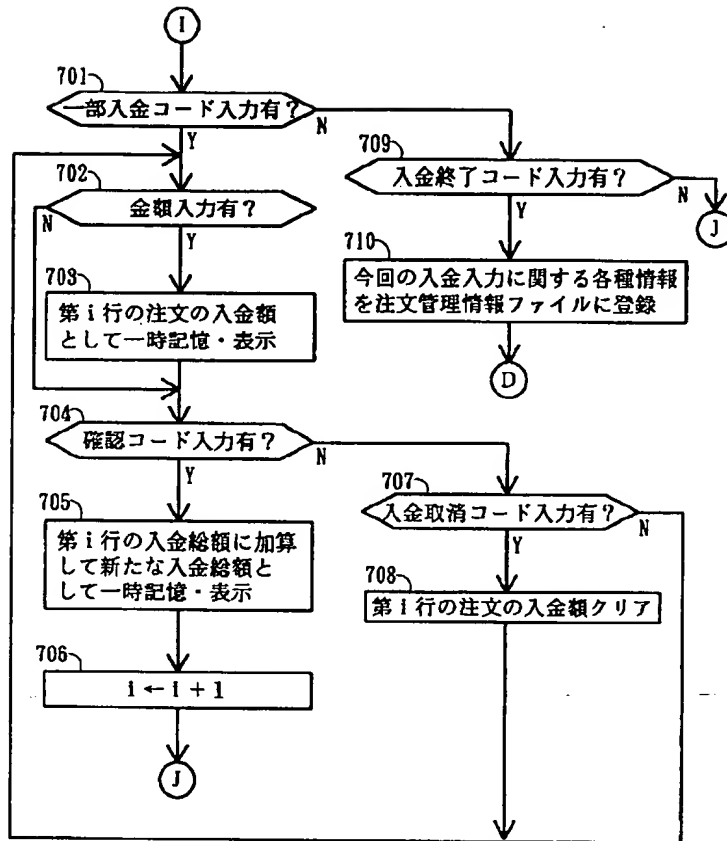


【図 2 2】

99-10-12 客器回収 店員名〇〇〇〇

月 日	No	エリア	顧客名	電話	注文代金	入金総額	入金額	配達	客器
10-12	1	1	〇〇〇会社	23-0034	1800	1800	1800	有	
10-12	2	5	〇〇〇〇	××××	500				
10-12	3	1	〇〇〇〇	××××	1500	1000	1000	有	有
10-12	4	4	〇〇〇〇	××××	2500				

【図 10】



【図 18】

(1)

93-10-12 調理指示 店員名

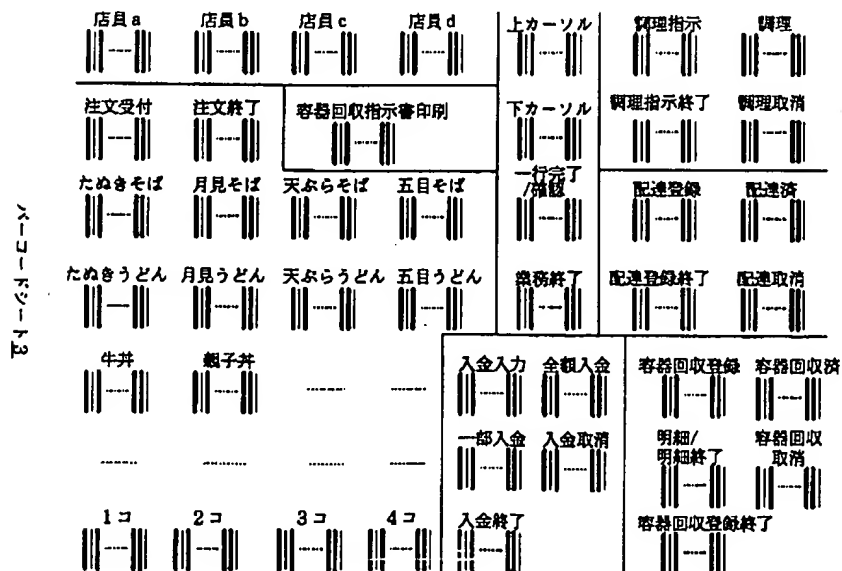
時間	No	エリア	顧客名	電話	調理指示

(2)

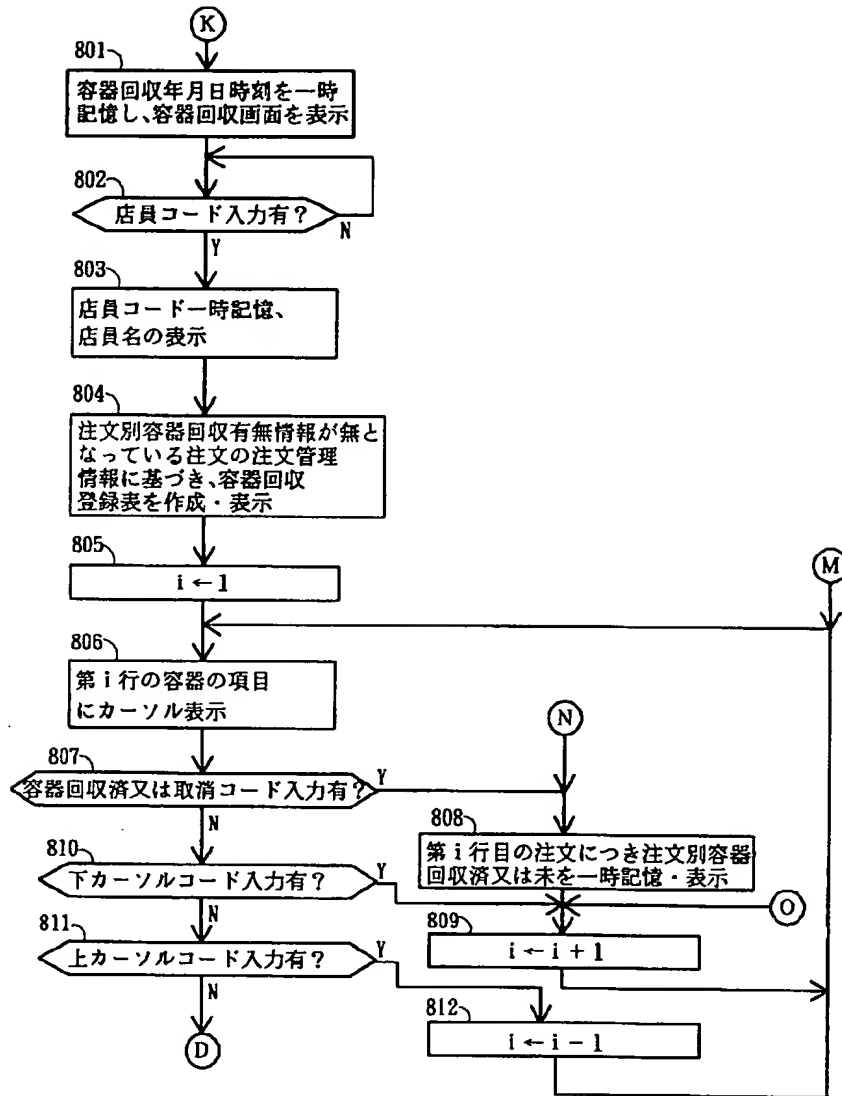
93-10-12 調理指示 店員名〇〇〇〇

時間	No	エリア	顧客名	電話	調理指示
AM11:30	1	1	〇〇〇会社	23-0034	
AM11:35	2	5	〇〇〇〇	××××	
AM11:39	3	1	〇〇〇〇	××××	
AM11:44	4	4	〇〇〇〇	××××	

【図 14】



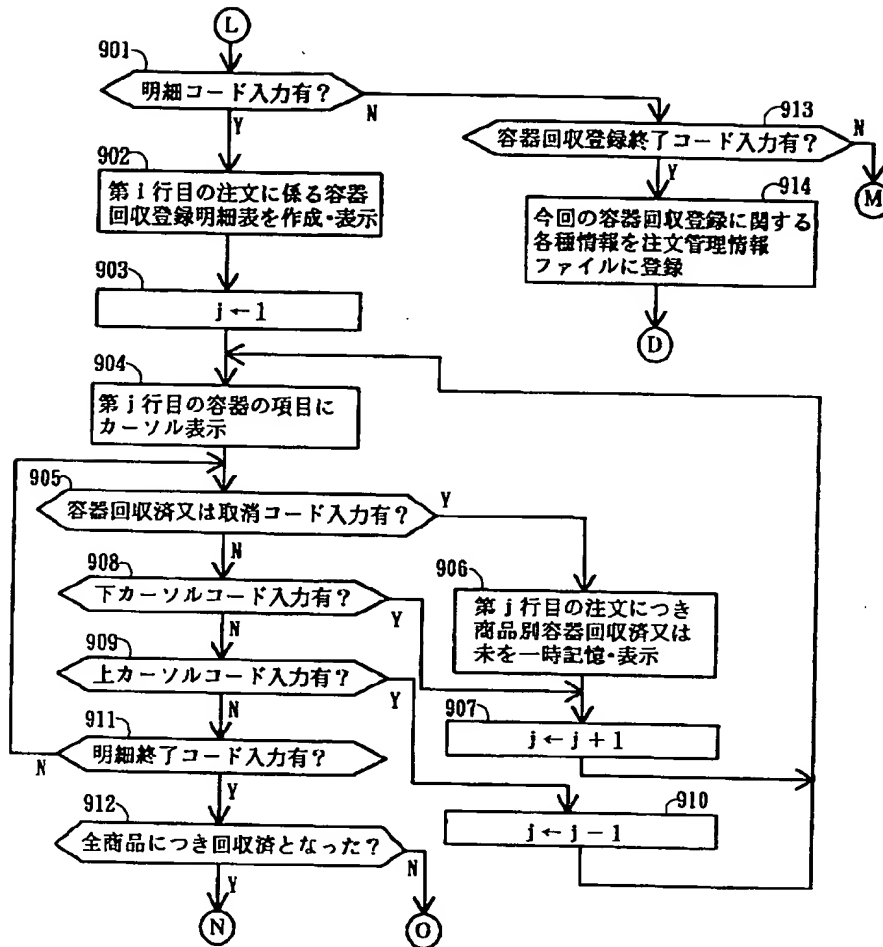
【図 11】



【図 26】

03-10-12 PM8:00 容器回収指示書					
配達エリア	電話番号	顧客名	住所	注文代金	入金総額
1	23-0034	〇〇〇会社	高崎市〇〇町〇〇	1800	
1	××××	〇〇〇〇	高崎市〇〇町〇〇	1500	
4	××××	〇〇〇〇	高崎市〇〇町〇〇	2500	
5	××××	〇〇〇〇	高崎市〇〇町〇〇	500	

【図 12】



【図 24】

調理指示書	
93年10月12日 調理部署 1	
商品名	数量
たぬきそば	2

調理指示書	
93年10月12日 調理部署 3	
商品名	数量
牛丼	1
親子丼	3

【図 27】

容器回収指示書							
93-10-12		PM6:30					
配達エリア	電話番号	顧客名	住所		注文代金	入金総額	
商品名	数量	商品名	数量	商品名	数量	商品名	数量
1	29-0034	〇〇〇会社	高崎市〇〇町〇〇		1800		
たぬきそば	2	牛丼	1				
1	××××	〇〇〇〇	高崎市〇〇町〇〇		1500		
親子丼	3						
4	××××	〇〇〇〇	高崎市〇〇町〇〇		2500		
天ぷらそば	4						
5	××××	〇〇〇〇	高崎市〇〇町〇〇		500		
月見うどん	1						

【図16】

(1)

93-10-12 注文受付 受付No 1 店員名
 電話番号
 顧客名
 担当者名
 確認

(2)

93-10-12 注文受付 受付No 1 店員名〇〇〇
 電話番号 23-0034
 顧客名 〇〇〇会社
 担当者名 〇〇〇〇〇
 確認

【図25】

お買上伝票			
93年10月12日		1	
〇〇〇会社 〇〇〇〇〇〇様		配達エリア	
高崎市〇〇町〇〇〇			
23-0034			
商品名	数量	単価	金額
たぬきそば	2	650	1300
牛丼	1	500	500
代金		計 1800円	
味の正屋		26-2142	

お買上伝票			
93年10月12日		1	
〇〇〇〇 様			
高崎市〇〇町〇〇〇			
XX-XXXX			
商品名	数量	単価	金額
親子丼	3	500	1500
代金		計 1500円	
味の正屋		26-2142	